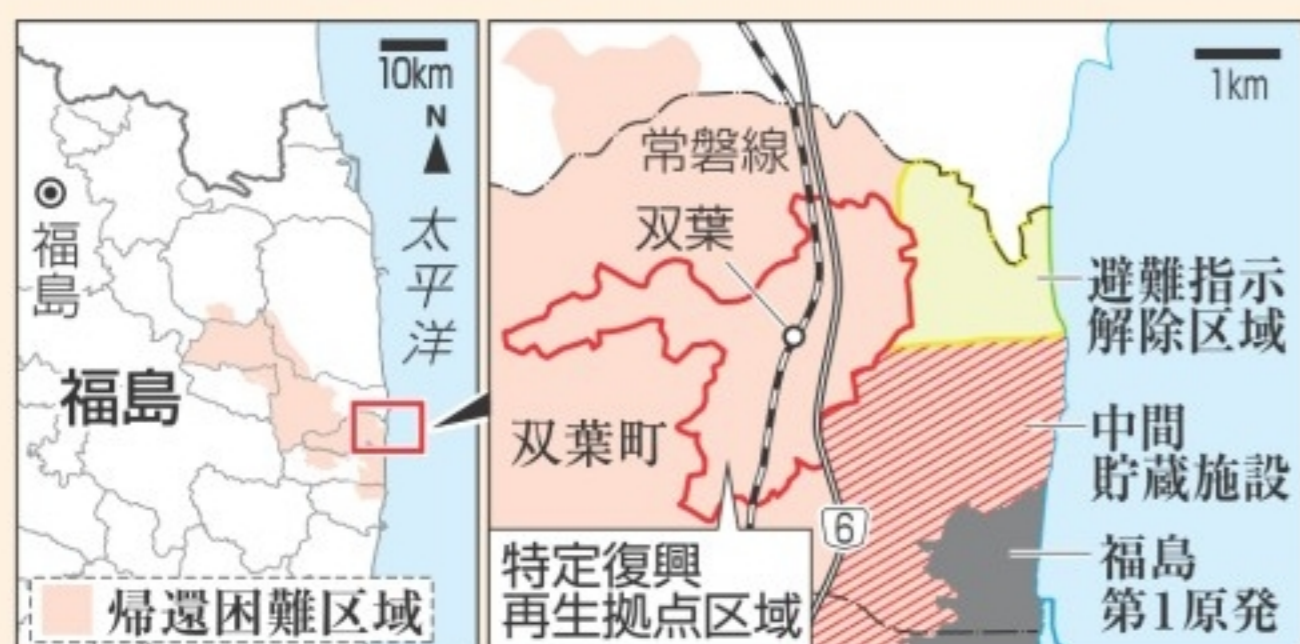


やってみよう! ワークシート



新聞には毎日、たくさんの記事や写真、広告がのっています。世界的な大ニュースから身近な地域の話までさまざまです。神戸新聞社は、その中から知ってもらいたいことや深く考えてほしい記事を取り上げ、ワークシートを使って自宅学習などに活用してもらっています。今回は東日本大震災によって引き起こされた東京電力福島第1原発事故から11年、住民がようやくふるさとに戻って住めることになった福島県双葉町のお話です。

JR双葉駅周辺の特定復興再生拠点区域＝8月29日午後、福島県双葉町



8月30日の朝刊にのった記事

福島原発事故 双葉町 11年ぶり居住再開 住人ゼロの被災自治体解消

2011年3月の東京電力福島第1原発事故で唯一、全住民の避難が続いていた福島県双葉町は8月30日午前0時、帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域(復興拠点)の避難指示が解除され、11年5カ月ぶりに居住できるようになった。これで居住人口ゼロの被災自治体は解消する。

第1原発5、6号機が立地し、埼玉への集団避難も経験した双葉町はようやく本格復興へのスタート地点に立つ。しかし面積の8割超が帰還困難区域のまま残るほか、長期避難で町民の帰還意向は低迷、県外在住者の割合も高い。医療体制の構築や教育環境の整備など課題は山積している。

居住可能エリアは、JR双葉駅周辺を含む復興拠点の5・55平方キロ、20年3月に避難解除され、東日本大震災・原子力災害伝承館や企業誘致の拠点が建設された町北東部の2・2平方キロ。町面積の約15%に当たり、人口の6割を超える1449世帯3574人(7月末時点)が住民登録するが、帰還への準備宿泊に参加したのは延べ52世帯85人のみだった。町は30年ごろの居住人口2千人を目指している。役場は福島県いわき市から町内へ戻り、9月5日に新庁舎で業務を始める。

原発事故で避難指示が出た11市町村のうち7市町村に帰還困難区域が残る。

8月30日の朝刊にのった記事

①双葉町の全住民に避難指示が出されたのは何が原因ですか

②双葉町の住民が待ちわびた居住再開です。空欄を埋めましょう

これで福島県内の
で住民が
ようになった

③残された課題は何ですか。三つ挙げましょう

④あなたは11年前、何をしていましたか。年月の長さに思いをはせましょう

答えは25日の「週刊まなびー」にのるよ。



もっとワークシートをやってみたいと思った人は、電子版「神戸新聞NEXT」の「神戸新聞NIE」コーナーでワークシートを検索してみてください。たくさんあるので興味のある新聞記事を選んでね。今回のワークシートの答えは、メール(kobe-nie@kobe-np.co.jp)か、はがき(〒650-8571 神戸新聞社「週刊まなびー」ワークシート係)で、名前と学年、または年齢を添えて9月24日必着で送ってね。正解者の中から、抽選で毎月10人に神戸新聞の記念品をプレゼントします。

11日
週刊まなびー

ワークシートの
解答例

- ① 1人当たり5千円分の地域商品券。約6千人に配られる
- ② 3月に竹内保治さん、直美さん夫妻が「新型コロナウイルス対策に役立ててほしい」と西脇市に寄付した5千万円の一部
- ③ 西脇病院に消毒用のロボットを導入した
- ④ 新型コロナで遊びに出られない子が、おやつでも買ってくれたらいい